

# 復活したい古曲

- (一) あなたが復活させたいと思ひになる古劇、古曲。  
 (二) それにどういふ類ふれの演技者、演奏者を望まれますか

諸家はがき回答

御 回 答

田 口 竹 男  
 一、歌舞伎―南北のグロ物、默阿彌の白浪も  
 の等を上演して、當今のチャチなエロ・グ  
 ロ・ギャングものなどを大いに諷刺すべし  
 一、文樂―近松もの以外なし。

三宅周太郎

一、丸本物の方は「幕間」十二月號に小生鶴  
 澤友次郎と對談、その中に申しません。  
 重複を恐れここでは申しません。  
 二、歌舞伎の方は延若の違者な間に「乳貰  
 ひ」を以前の如き臺本でカットなしに、鷹  
 治郎に歌へてやらせてみたい、同僚として  
 も「雁のたまり」の名譽恢復をすべく、尤  
 も小生は延若の時の本物を見てゐる女形を  
 起用したい、成太郎あたりなら見てゐるの  
 ではありませんまいか。

高 谷 伸

義太夫では「傾城烏原蛙合戦」「傾城酒頭  
 童子」ともに近松のもですが、山城少掾に  
 復活上演できたらと思ひます。  
 歌舞伎では「傾城倭莊子」小山内氏の翻案  
 した西山物語の原本です。「傾城黄金鷲」作  
 は並木五瓶の二作、殊に前の父親など延若の  
 違者なうちにやつて欲しいものです。みんな  
 頭に傾城が偶然つきましたが正月のことです  
 から上方狂言のならひと御諒承下さい。

食 満 南 北  
 山城少掾  
 姫小松子の日の遊び。

大 西 利 夫

古曲とはいへませんが  
 一、香手鳥孤城落月(梅玉の淀君、吉右衛門  
 の片桐で)。  
 二、山城少掾の忠臣蔵九段目。  
 三、巢林子の壽門松、山崎淨閑宅、原作のま

山城少掾の素語りて。

升屋治三郎

一、復活したき古狂言、古典。  
 (一) 歌舞伎―繪本合邦衝「文月恨切子」  
 文 樂―「五天笠」(文樂藝術から縁  
 起い作品かもしませんが、大衆  
 藝術、一種の見世物、スベクタク  
 ルとして日本の誇るべき民衆藝術  
 の特異なジャンルを示す點で大い  
 に意義があると思ひます)

一、この演者でこれ上演、演奏してみたい。  
 (イ) 文 樂―今の文樂の人々で「菅原」  
 「千本櫻」の通し。

(ロ) 歌舞伎―延若の『いろは新助』お妻  
 八郎兵衛  
 (ハ) 新 劇―瀧澤修の『リヤ王』。俳優  
 座の「マクベス」(小澤のマクベ  
 ス、東山の令夫人) 文學座の『  
 二夜』

渥美清太郎

義太夫劇「姫小松子日廻遊」洞ヶ嶽の俊寛  
 を、吉右衛門・時藏で復活してみたいと思  
 ひます。小生は歌六のを見てますが、吉  
 右衛門にはキツと向くに違ひありません。

片 山 博 通

芝居では古い通し狂言もの、例へば南北の  
 ものなど―然しかうした狂言は配役の關係  
 上現在の獨立劇壇の一つや二つにては上演  
 能かと思ひますから二、三の劇壇の合同出演

が望ましいです。  
能では流儀により廢曲になつてゐるが他流にては上演されてゐるものがあります。例へば求塚、落葉などかうしたものの復活上演も望ましいと思ひます。

若狭 万次郎

人形では大江山(酒吞童子)玉藻前など云つた少しかはつたものもタマには出して如何でせう。最近復活した蝶々道行(けいせい倭莊子)を軍治兵衛内から出すなども面白いと思ひます。  
所作事では近年中検でやつた常盤津の「うとふ」。もう曲も消えてなくなりさうです。早く何とかして頂きたいと存じます。

秋葉 芳美

一、二「國性爺合戦」(淨瑠璃、三段目切獅子ヶ城、山城少掾)、(歌舞伎、獅子ヶ城樓門甘輝館、古老連で、但錦祥女は中村芝翫又は尾上梅幸)  
歌舞伎「積情雪乳貰」(乳貰ひ、中村傳次郎)「競伊勢物語」(中村吉右衛門の綱有帯を中心として)、「新薄雪物語」(三人笑東四合同大一座で)、「宿無團七時雨傘」(織合檻樓錦)(大晏寺)、「關平物狂」(坂東三津五郎)舞踊「京鹿子娘道成寺」(六代目や現行の演出でなしに化政度基準の演出で、道行から、中村芝翫又は坂東三津五郎)、「亂曲三番叟」(初代中村伊藏所演の臺本による、

尾上松緑又は坂東三津五郎)、「蜘蛛拍子舞」(尾上松緑)、「貴船」(山村愛か山村友)、「淀川」(武原はん)(亂曲三番叟の臺本は小生「日本舞踊」に記載。)

木谷 蓬吟

歌舞伎 ○大塔宮(身替り音頭) 延若(齋藤太良左衛門) 梅玉(花園) ○井筒業平(河内局)(有常館より初瀬寺) 有常妻(梅玉) 民部太郎(延若) 桂金吾(壽三郎) 紅梅(富十郎)  
文樂 ○新薄雪(團部館) つばめ太夫 ○増補大江山(頼光館基の段) 濱太夫 ○宵庚申(上田村) 大岡太夫 ○狹間合戦(壬生村) 綱太夫

本山 萩舟

廢絶するには廢絶するだけの理由あるやうにて、一概にはいへざれど

近松の「國性爺後日合戦」など、見直さるべきにあらずやと思ふ。だいに以前團次一座で上演されし時、なか／＼面白かりし記憶あり。今ならさしづめ吉右衛門の老一官か。先づ文樂座で山城少掾あたり、復活上演を希望できざるや。

飯塚友一郎

古劇、古曲がすたれるのは、自然淘汰によるので、復活してみても大して面白くないのが習い事です。ことに、演者が亡くなると、古曲そのもの、致命傷となる場合少なからず。強いて求めれば、歌舞伎ではほとんど近頃出ない廿三間堂のお柳を見たかと思ひますが、これもお柳役者への注文がむつかしいでしょう。

安藤常次郎

二、喜多六平太の「木賊」、豊竹山城少掾の「心中宵庚申」



天神 (特殊カシラ)

これは「義經千本櫻」の四段目「御殿」に出る狐忠信です。カシラは高明(かうめい)の一種で「天神」といはれる特殊カシラ。ネムリ(目が閉ること)それに動物の写實として兩耳が動きます。即ち特殊なミミウゴキです。戦災で焼失しました。これだけの名品はもう將來望めませぬ。